

本時のねらい

・ブラジルの経済成長の要因と環境問題の背景を関連付け、業者・住民・政府それぞれの立場での解決策を考える。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・経済成長と環境問題の自分の考えを他の生徒と共有し、その考えを用いて、グループで意見をまとめる協働学習へとつなげる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ミライシード（オクリンプラス） ・キャスト

本単元で育む主な情報活用能力

1 - STEP 3, 3 - STEP 3

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5 分)	・南アメリカ州の既習事項を確認し、今日のめあてと課題を確認する。 めあて「ブラジルの環境問題について解決策を考える」	
展開 (40 分)	・ブラジルを題材に経済成長のために開発することのメリット・デメリットを個人で考え、オクリンプラス内の 1 枚のカードに書き出す。【写真 1】 ・1 クラスを 3 ～ 4 人の 9 つのグループに分ける。教員から各グループに、個人で考えたメリット・デメリットをグループで整理するためのカードを送る。 ・個人で考えた内容をもとに、経済成長のための開発を行っていく上で、『開発業者』『先住民』『ブラジル政府』の 3 つのそれぞれの立場で意見を出し合い、みんなが納得する解決策を協働学習で導き出す。【写真 2】 ・小グループで意見を出し合い、各グループでまとめた最高の解決策を作成し、共有用のボードに送ることで、全グループで考えを共有をする。 ・9 グループの『最高の解決策』のうち、一番良かったと思う意見に投票する。	・各小グループの意見を教員機で閲覧することで、全体の意見を把握でき、生徒がよりよい解決策にたどり着けるよう軌道修正等の助言をする。 ・オクリンプラスの共同学習ツールを使うことで、他のグループの作業を参考にしたり、質問したりなど、よりよい解決方法への糸口を見つけられる。 ・各グループが解決策を共有用のボードに送ることで、他者の意見をじっくりと比較し、どの意見が一番よいかを個人で判断できる。 ・一番良いと判断した意見には花丸、他の意見にもリアクションスタンプで評価させることで、すべての意見を整理し、比較できるようにする。
まとめ (5 分)	・オクリンプラスで 1 枚のカードを送り、トゥールミンモデル（※「主張」を支える根拠を「事実・根拠」と「理由づけ」に分けて 3 つの要素を図式化したもの）を用いて、事象間のつながりを総合的に関連付けてまとめ、提出ボックスに提出する。【写真 3】	・「結論」や「理由付け」など自分の考えを整理して入力できるシートを全員に送ることで、生徒はまとめやすくなり、授業者も評価しやすくなる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】経済成長に向けての開発のメリット・デメリットを 1 人で考える。



【写真 2】小グループで意見を出し合い、最高の解決策を導き出す。



【写真 3】各グループの最高の解決策を比較し、1 つに投票する。

児童生徒の反応や変容

自分の意見をクラウド上に書き出し、小グループで協働学習しながら一つの意見にまとめていくことで、主体的に学習に取り組む姿勢が見られた。さらに、協働学習で他者の意見を知ることによって「どんなふうにもまとめればいいのか」が分かり、個々の表現力向上につながった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

これまで、机間指導を行い、それぞれのグループに助言を行っていたが、端末から全グループの意見を閲覧し、個々のグループに直接助言できるので、的確な指導を行うことができる。また、各グループが、共有されたボードに自分たちが導き出した解決策を送ることで、他のグループの解決策が閲覧できるため、生徒がそれらを参照しながらスムーズに加筆・修正することができる。